



erica synths × 112dB

XENODRIVE

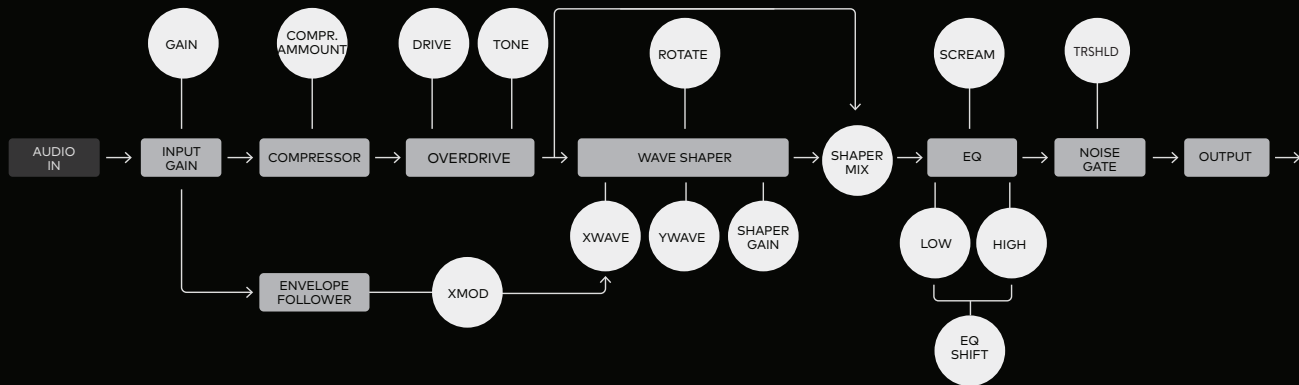
Erica Synths Xenodriveをご購
入いただき、誠にありがとうご
ざいます。

112db.com と Erica Synths によって開発されたアルゴリズムを搭載した Xenodrive は、他に類を見ないステレオ対応のディストーション／オーバードライブ／ウェーブシェイパーFXユニットです。スタジオやライブパフォーマンスにおいて、繊細な倍音の付加から過激なサウンド破壊まで、直感的な操作でサウンドを自在にコントロールできます。

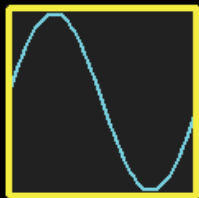
12 個のパラメーターによる高度なサウンドデザイン、全パラメーターの保存／呼び出し機能、全パラメーターの MIDI コントロールに対応し、コンパクトなデスクトップシリーズに統一された洗練されたアルミニウム筐体を採用。

Xenodrive は、ライブ、スタジオ、そしてあらゆる音響実験の現場において、あなたのサウンドを次のレベルへと引き上げます。

Xenodrive は、入力信号の倍音成分を根本的に変化させることを目的に複数のオーディオ処理「モジュール」を組み合わせた設計となっており、信号経路は、まず入力信号を最大 +24dB まで増幅する GAIN STAGE から始まり、このパラメーター単体でもアナログ・オーバードライブとして機能します。その後信号は COMPRESSOR および ENVELOPE FOLLOWER に分岐され、ドライブおよびトーンコントロールを備えたゲルマニウム・ダイオードをエミュレートした OVERDRIVE によって処理されたのち、厳選された 16 × 16 の波形を収録したウェーブテーブル方式の WAVESHAPER に入力されます。選択された波形に沿って音声信号がラップされ、さらにシェイパーの GAIN 設定に応じてフォルディング処理も加えられ、ENVELOPE FOLLOWER は、ウェーブテーブル X 軸上の波形選択を制御し、最終的に EQUALIZER および NOISE GATE を通過して BALANCED OUTPUT ステージから出力されます。

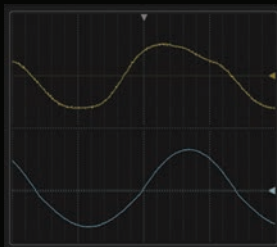


▶ ウェーブシェイパーとウェーブフォルダーの動作例



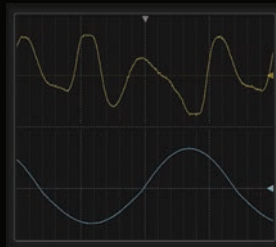
ウェーブシェイパー波形

アウトプット



ウェーブシェイパーの
ゲイン設定：最小

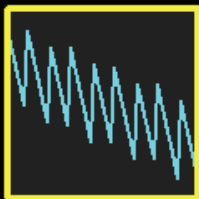
インプット



ウェーブシェイパーのゲイン
設定位置：12時方向

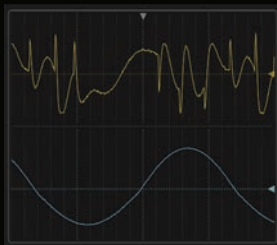


ウェーブシェイパーの
ゲイン設定：最大



ウェーブシェイパー波形

アウトプット



ウェーブシェイパーの
ゲイン設定：最小

インプット



ウェーブシェイパーのゲイン
設定位置：12時方向



ウェーブシェイパーの
ゲイン設定：最大

Xenodrive には、コンプレッサーが内蔵されており、このコントロールでコンプレッションの量を調整します。

Xenodrive の入力ゲインを調整します。ギターレベルからラインレベルまで対応します。

ウェーブシェイパーの強度を設定し、追加のウェーブフォルディングを加えます。

OLEDディスプレイにはプリセットの表示および各種設定へのアクセス機能があり、あわせてシェイパーの波形も表示されます。

DATAエンコーダーは、プリセットの保存や各種設定およびその他のメニューへアクセスするために使用します。

Xenodrive の出力ボリュームを調整します。

メニューを1つ前の階層に戻し、波形表示後はウェーブ表示画面を終了します。

ボタンを押すとエフェクトをバイパスします。バイパス時でも GAIN および VOLUME の設定は有効で、FX パッチのみがバイパスされます。

ゲルマニウムダイオードをエミュレートしたオーバードライブの、ブレイドライプ量を設定します。

ウェーブテーブルの X 軸上のウェーブシェイパー波形を選択します。X WAVE ノブを回すと、OLED に現在使用中の波形が表示されます。BACK ボタンを押すとメイン画面に戻ります。

ブレイドライプのトーンを調整します。可変センター周波数を持つバンドパスフィルターとして機能します。

現在選択されているウェーブシェイパー波形の位相をシフトします。

ウェーブテーブルの Y 軸上のウェーブシェイパー波形を選択します。Y WAVE ノブを回すと、OLED に現在使用中の波形が表示されます。BACK ボタンを押すとメイン画面に戻ります。

成形された信号のバランスをコントロールします。

信号の低域成分をブーストまたはカットします。

信号の高域成分をブーストまたはカットします。

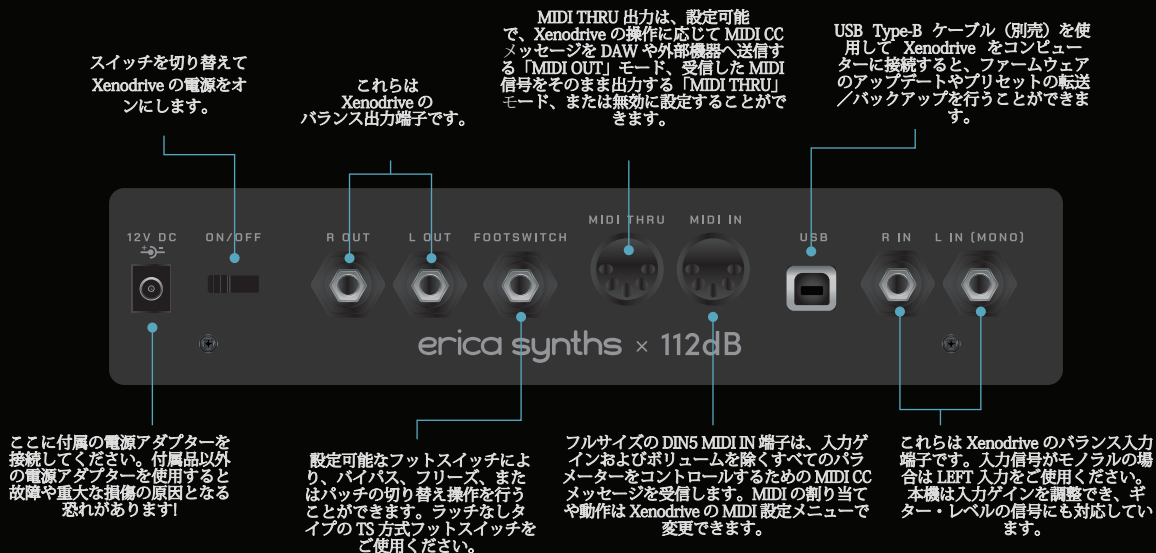
ボタンが点灯している場合、イコライザーのカットオフ周波数に追加のレゾナンスが加えられます。

イコライザーのセンター周波数をシフトします。

X WAVE にエンベロープフォロワーによるモジュレーションを適用します。ノブを12時の位置にするとレゾナンスがならず、時計回りに回すと正方向のエンベロープ、反時計回りに回すと反転したエンベロープが適用されます。



▶ 接続



▶ メニュー操作について（基本操作）

Xenodrive のほとんどの操作はハンズオンで行えますが、一部の機能は DATA エンコーダーを使用して OLED ディスプレイ上からアクセスします。

01 HCWILLNEVERD

Xenodrive の電源を入れると、ディスプレイにプリセットの一覧が表示されます。本機には 42 種類のファクトリープリセットが収録されており、最大 60 件のユーザープリセットを保存できます。DATA エンコーダーを回してプリセットを選択し、押し込むことで選択したプリセットを読み込みます。プリセットは、コンピューターへバックアップすることができ、他の Xenodrive ユーザーが作成したプリセットを読み込むことも可能です。詳しくは下記の SYSTEM 設定を参照してください。

PATCH

BACK ボタンを押すとメインメニューに入ります。DATA エンコーダーを回してメニュー内を移動し、押し込むことで決定します。メニューの最初の項目は、PATCH（プリセット）の管理用セクションです。

SAVE SAVE AS RENAME

プリセットを保存するには、「SAVE AS」を選択し、エンコーダーを押して確定します。続いて、プリセット名の入力画面が表示されます。



パッチ名を入力するには、DATA エンコーダーを長押しして、ディスプレイ下部に文字選択画面を表示させます。DATA エンコーダーを回して文字を選択し、押し込むことで選択した文字を入力します。入力が完了したら、再度 DATA エンコーダーを長押しすると、プリセット名入力画面に戻ります。「SAVE」を選択して DATA エンコーダーを押すと、保存が確定します。なお、この画面ではプリセット名を消去する「CLEAR」や、ランダムなプリセット名を生成する「MAGIC」も使用できます。ディスプレイ下部のメニュー項目は、DATA エンコーダーを回して選択します。

PATCH

PATCH 管理メニューには、「MAGIC」という機能があります。DATA エンコーダーを押して MAGIC を実行すると、すべてのパラメーターをランダムに組み合わせた新しいプリセットが自動生成されます。生成されたサウンドが気に入った場合は、そのままプリセットとして保存できます。



PATCH メニューでは、プリセットを並び替える「SORT」機能も使用できます。フットスイッチでプリセットを切り替える場合に便利な機能です。「SORT」を選択して DATA エンコーダーを押すと有効になります。



プリセットを並び替えるには、DATA エンコーダーを回して移動したいプリセットを選択し、押しで確定します。選択したプリセットは「固定」状態となり、エンコーダーを回すことで別のスロットへ移動させることができます。配置が決まったら、DATA エンコーダーを押して新しい位置を確定します。PATCH メニューを終了するには、BACK ボタンを押してください。



EFFECT セクションでは、Xenodrive の DSP の動作を設定できます。EFFECT メニュー内のすべての設定はプリセットごとに管理され、プリセットとともに保存されます。



Xenodrive は、非常に強烈でノイズなディストーションを生成する場合があるため、信号経路の最後にノイズゲートが搭載されています。THRESHOLD は、信号を通すかミュートするかを決定するゲートの開閉レベルを設定します。



次の項目では、ノイズゲートのリリース時間を調整できます。入力信号がしきい値を下回った後、ゲートがどれくらいの速さで閉じるかを設定し、フェードアウトの長さをコントロールすることで、より自然で滑らかな音の減衰を実現します。



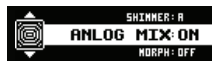
フロントパネルの Dry/Wet (SHAPER MIX) は、実際にはウェーブシェイパーのゲインのみを調整します。そのため、入力信号とのバランスを調整できるよう、EFFECT メニュー内に専用の Dry/Wet ミックス設定を追加しています。デフォルトでは常に WET に設定されており、本機は、エフェクト・センドではなく ON/OFF タイプのディストーション・エフェクトとして動作しますが、本設定を使用することで、入力信号と並列にミックスすることが可能になり、よりラウドなパッチを慎重にブレンドして使用することができます。



初期設定では、DRY と WET のレベルはほぼ同じに設定されていますが、WET 信号のレベルを下げることで、入力信号とディストーション信号のバランスを調整することができます。これにより、非常にアグレッシブなパッチであっても、ON にした瞬間に適切な音量になるようレベルを整えることが可能です。DATA エンコーダーを押して FX レベルメニューに入り、回して WET 信号の相対的な音量を調整し、再度押して設定を確定してください。



エンベロープ・フォロワーのリリース時間を設定します。DATA エンコーダーを押して EF RELEASE メニューに入り、回してリリース時間を調整します。



DRY/WET ノブの位置を保存するため、Xenodrive ではアナログ VCA を使用し、DRY 信号と WET (ディストーションおよびウェーブシェイパー処理後の) 信号の間をフェードさせています。このアナログ VCA を無効にし、デジタル方式の DRY/WET ミックスに切り替えることも可能です。設定するには、DATA エンコーダーを押して「ANALOG MIX」を選択し、回して「OFF」を選び、再度押して確定してください。



Xenodrive のもう一つの特長が、プリセットの MORPH 機能です。プリセットを即座に切り替える代わりに、次のプリセットへフェードインさせる時間を設定することができます。DATA エンコーダーを押して「MORPH」を選択し、回してフェードイン時間(秒)を設定してください。設定可能な値は、0.1 秒、0.2 秒、0.5 秒、1 秒、1.5 秒、2 秒、3 秒、4 秒、5 秒、7.5 秒、10 秒です。EFFECT メニューを終了するには、BACK ボタンを押してください。



MIDI メニューでは、Xenodrive の MIDI 設定を行います。



このメニューの最初のサブメニューでは、MIDI チャンネルを設定します。エンコーダーを押してチャンネル選択を有効にし、回してチャンネルを選択してください。設定したチャンネルは MIDI IN と MIDI OUT の両方に適用されます。



次に、MIDI 出力の設定を行います。DATA エンコーダーを押して MIDI 出力設定に入り、回してモードを選択してください。MIDI 出力は、Xenodrive の操作に合わせて MIDI CC メッセージを DAW や外部機器へ送信する「MIDI OUT」モード、受信した MIDI 信号をそのまま出力する「MIDI THRU」モード、または無効に設定することができます。



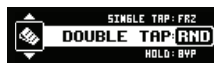
MIDI メニューを下にスクロールすると、Xenodrive のすべてのパラメーターに任意の MIDI CC メッセージを割り当てることができます。初期設定の CC 割り当てについては、本マニュアルの 10 ページをご参照ください。たとえば、SHAPER GAIN のデフォルトの CC 番号は 70 に設定されていますが、DATA エンコーダーを押して回すことで、別の CC 番号に変更できます。MIDI メニューを終了するには、BACK ボタンを押してください。



FOOTSWITCH セクションでは、Xenodrive のフットスイッチの動作を設定します。



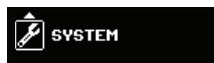
SINGLE TAP に割り当てる動作として、以下の項目を選択できます。OFF：フットスイッチは反応しません、BYPASS：エフェクトのバイパス、SCREAM、FWD：踏むたびに次のプリセットへ切り替え、BWD：踏むたびに前のプリセットへ切り替え、RND：踏むたびにリストからランダムにプリセットを呼び出し、MGC (MAGIC)：踏むたびにすべてのパラメーターをランダムに組み合わせたプリセットを生成します。DATA エンコーダーを回して項目を選択し、押して確定してください。



DOUBLE TAP には、SINGLE TAP と同じ項目を割り当てることができます。



フットスイッチの HOLD (2 秒押し) には、以下の動作を割り当てることができます。OFF：ホールド操作を無効、BYPASS、SCREAM、DATA エンコーダーを回して項目を選択し、押して確定してください。FOOTSWITCH メニューを終了するには、BACK ボタンを押してください。



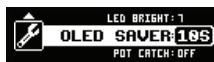
SYSTEM メニューでは、Xenodrive の全体設定およびパッチのバックアップに関する項目を確認・設定できます。



SYSTEM メニューの最後の項目には、ファームウェアのバージョンが表示されます。最新のファームウェア情報については、Erica Synths のメーリングリストや公式 SNS をフォローするか、公式サイトをご確認ください。



最初の項目では、OLED ディスプレイの明るさを設定します。DATA エンコーダーを押して明るさ設定を選択し、回して任意の明るさに調整し、再度押して確定してください。次の項目ではLEDの明るさを調整できます。同様に、DATA エンコーダーを押して設定に入り、回して明るさを調整し、押して確定します。



次の項目では、OLED ディスプレイのスクリーンセーバー設定を行います。DATA エンコーダーを押してOLED SAVERを選択し、回してスクリーンセーバーが作動するまでの時間を設定し、再度押して確定してください。あわせてOLED DIMMINGを有効にし、減光までの時間を設定することもできます。設定した時間が経過するとOLEDの輝度が下がり、ディスプレイの寿命を延ばすことができます。



POT CATCH オプションは、プリセット切り替え時のノブ位置の記憶機能をON/OFFに設定します。各プリセットにはそれぞれ異なるノブ位置が保存されており、プリセットを切り替えると多くの場合、現在のノブ位置とは異なります。POT CATCHをONにすると、ノブを回して保存されている位置に一致した時点からパラメーターが変化し始めるため、音の変化をスムーズに行うことができます。POT CATCHをOFFにした場合、ノブを回した瞬間にパラメーターが変更され、そのままサウンドに反映されます。さらに「POP」という設定があり、これを選択するとPOT CATCHが有効になるとともに、調整中のパラメーターに対して、どの位置に合わせる必要があるかを示すポップアップ表示が行われます。



LOAD LASTをONに設定すると、Xenodriveの電源を入れ直した際に、電源オフ直前に使用していたプリセットが自動的に読み込まれます。OFFに設定すると、起動時にプリセットリストの最初のプリセットが読み込まれます。



SHOW WAVE 設定では、現在選択されている波形をOLEDに表示するかどうかを設定します。エンコーダーを押してSHOW WAVE設定に入り、回して表示のON/OFFを選択し、再度押して確定してください。



USB MANAGE モードでは、個別のパッチプリセットを追加・削除できます。USB ケーブルでXenodriveをコンピュータに接続し、DATA エンコーダーを押して開始してください。Xenodriveは外部ドライブとして認識され、中にプリセットファイル(.nvp)を収めたフォルダーが表示されます。新しいプリセットを追加したり、個別のパッチをバックアップ/削除することができます。作業終了後は、Xenodrive 本体のBACK ボタンを押してコンピュータから取り外してください。

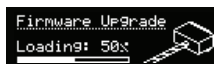


USB BACKUP モードでは、Xenodriveに保存されているすべてのパッチをバックアップできます（設定内容は含まず、パッチおよびその並び順のみが保存されます）。USB ケーブルでXenodriveをコンピュータに接続し、DATA エンコーダーを押して開始してください。Xenodriveは外部ドライブとして認識され、「backup.nvb」という単一のファイルが入ったフォルダーが表示されます。このファイルをコンピュータに保存してバックアップしたり、別の「backup.nvb」ファイルに置き換えることで、他のバックアップデータを読み込むことができます。※別のバックアップを読み込むと、現在のパッチおよびその並び順はすべて上書きされますのでご注意ください。



Xenodrive をファクトリーリセット（出荷時状態に初期化）することができます。DATA エンコーダーを押し、OLED 画面の指示に従ってください。

▶ ファームウェアのアップグレード



Xenodrive のファームウェアをアップデートするには、まず本機の電源を切り、USB ケーブルでコンピュータに接続します。次に、DATA エンコーダーと SCREAM ボタンを同時に押し続けながら電源を入れてください。ファームウェアアップデート画面が表示され、本機は外部ドライブとして認識されます。ドライブを開くと、「INFO.txt」ファイルのみが入った空のフォルダーが表示されますので、そこに .uf2 形式のファームウェアファイルをドラッグ&ドロップしてください。ファイルの転送が始まるとすぐにアップロードが完了し、ディスプレイに「FINISHED!」と表示された後、自動的に再起動して通常動作モードに戻ります。完了後はドライブ表示が消えますので、USB ケーブルを取り外していただいて問題ありません。これでファームウェアの更新は完了です。

▶ デフォルトの MIDI CC 割り当て

PARAMETER	MIDI CC	RANGE
Shaper gain	70	0-127
Drive	71	0-127
X wave	72	0-127
Tone	73	0-127
Rotate	74	0-127
Y wave	75	0-127
Compressor	76	0-127
Shaper mix	77	0-127
X mod	78	0-127
Low EQ	79	0-127
High EQ	80	0-127
EQ Shift	81	0-127
Scream	82	ON/OFF
DRY/WET	83	0-127

▶ ファクトリープリセット by Eraldo Bernocchi

これらのパッチは、さまざまな楽器向けに設計されているため、プリセットのサウンドは、入力 GAIN、DRIVE、TONE の設定によって大きく変化します。これらの設定をわずかに変更するだけでも、パッチの反応がまったく異なるものになる場合がありますが、目安としては、出力レベル LED の約 2/3 が点灯するように GAIN を調整してください。最も重要なのは、実際に試しながら音を作っていくことです。ファクトリープリセットはあくまで参考例としてご活用ください。なお、VOLUME 設定には十分ご注意ください!

- 1 **2 IN 1 (DISTORTION & SHAPER)** – ディストーションとウェーブシェイパーで、あらゆるサウンドを処理できます。COMPRESSOR を使って音作りを行ってください。ドラムにも最適です。SCREAM は大胆に使えますが、音量にご注意ください。
- 2 **50/50 (EXPERIMENTAL / TEXTURAL)** – 破壊への中間地点。GAIN を調整することでサウンドは大きく変化します。SCREAM でさらに過激さを加えることができますが、音量にはご注意ください。
- 3 **ADD (EXPERIMENTAL / TEXTURAL)** – 壊れかけの古いラジオのようなサウンド。長いサンプルやドローンに最適です。あらゆる音にサチュレーションを加えます。DRIVE と ROTATE を使って調整してください。
- 4 **BASS IN (BASS & GUITAR)** – ベースに使用してください。Y WAVE をゆっくり回して、最適なポイントを見つけてください。
- 5 **BASS ME (BASS & GUITAR)** – ベースを容赦なく歪ませるサチュレーター。
- 6 **BEAT TRF 1 (DRUMS & PERCUSSION)** – グルーヴ・デストロイヤー。TONE と ROTATE を使って音作りを行ってください。
- 7 **BEAT TRF 2 (DRUMS & PERCUSSION)** – グルーヴ・デストロイヤー。TONE と ROTATE を調整して変化を楽しんでください。
- 8 **BEAT TRF 3 (DRUMS & PERCUSSION)** – グルーヴ・デストロイヤー。GAIN を上げてサウンドをオーバーロードさせてください。
- 9 **BS DIST (BASS & GUITAR)** – エレクトリック・ベース向けのパッチです。EQ の設定にはご注意ください。過激に歪むプリセットです。
- 10 **BS DIST 2 (BASS & GUITAR)** – エレクトリック・ベース向け。控えめな歪みのプリセットです。
- 11 **CYMB DESTROY (DRUMS & PERCUSSION)** – シンバル・デストロイヤー。
- 12 **DIRTY PAIN (DISTORTION & SHAPER)** – 不穏な周波数シフト。SHAPER MIX を使い、DRIVE や EQ を調整しながら試してみてください。
- 13 **DOOMER 2 (BASS & GUITAR)** – ダークでヘヴィなギター／ベーストーン。
- 14 **DOMMER (BASS & GUITAR)** – DOOMER 2 にウェーブシェイパーを追加したサウンドです。
- 15 **ELECTRIC BS (BASS & GUITAR)** – GAIN で適切な入力レベルを調整し、EQ SHIFT を好みに合わせて設定してください。
- 16 **ELECTRIC BS2 (BASS & GUITAR)** – 低音を太くし、ほのかな歪みを加えます。トーンはお好みに応じて調整してください。
- 17 **GATED BT (DRUMS & PERCUSSION)** – EQ SHIFT を調整してキックの基音周波数を強調してみてください。あえて強く入力して、その変化をお楽しみ下さい。
- 18 **GT DIST (BASS & GUITAR)** – ギターに最適ですが、どのような音源でも入力できます。EQ と EQ SHIFT を使って調整してください。

-
- 19 JMC GUIT (BASS & GUITAR)** – エレクトリック・ギターを入力し、DRIVE と SHAPER GAIN を調整してください。SCREAM の使いすぎにはご注意ください。
- 20 KICK ME01 (DRUMS & PERCUSSION)** – キックやパーカッション向けのウェーブシェイパーです。WAVE X/Y を使って、最もハードなポイントを探してください。
- 21 KICK ME02 (DRUMS & PERCUSSION)** – キックやパーカッション向けの別バージョン・ウェーブシェイパーです。WAVE X/Y を使って、最もハードなポイントを探してください。
- 22 KICK ME03 (DRUMS & PERCUSSION)** – キックやパーカッション向けのウェーブシェイパーです。TONE と ROTATE を使って、最もハードなポイントを探してください。
- 23 KICK ME04 (DRUMS & PERCUSSION)** – 入力された音は、ノイズゲートが開いた瞬間にフィードバックします。
- 24 MAD GEE (EXPERIMENTAL / TEXTURAL)** – ROTATE を調整してうなりや干渉を作り出してください。速い素材ほど効果的です。強く入力するほど、ノイズの壁の中から隠れたメロディが浮かび上がります。SCREAM や WAVE を使って音作りしてください。
- 25 MALFUNCTION (DISTORTION & SHAPER)** – どのような音を入力しても激しく歪みます。SHAPER GAIN を使って調整してください。
- 26 MIX SATUR (EXPERIMENTAL / TEXTURAL)** – ミックス全体にサチュレーションを加えます。EQ と COMPRESSOR を使って音を調整してください。
- 27 MUFFLED (EXPERIMENTAL / TEXTURAL)** – 弦楽器に使用してみてください。
- 28 NOISE ADD (EXPERIMENTAL / TEXTURAL)** – どのような音を入力しても、シンバルのようなノイズ感や動きのあるノイズを加えます。SHAPER MIX と X WAVE を調整して、最適なポイントを見つけてください。
- 29 OLD PEDAL (EXPERIMENTAL / TEXTURAL)** – うなりのあるサウンドが特徴のパッチです。ドラムループで試してみてください。SCREAM を使って変化を加えられます。
- 30 SATURATOR (DISTORTION & SHAPER)** – 名前のとりのサウンドです。EQ SHIFT と TONE を使って調整してください。
- 31 SCREAMER (DISTORTION & SHAPER)** – SCREAM と EQ SHIFT を使って調整してください。サウンドを徹底的に変化させる、過激なエフェクトです。
- 32 SLOW MONSTER (DRUMS & PERCUSSION)** – ゆっくりした素材を入力し、COMPRESSOR、SHAPER GAIN、X-MOD を調整してください。
ドラムやグルーヴの変形にも使用できます。WAVES と DRIVE を使って調整してください。

▶ ファクトリープリセット by Davide Puxeddu

これらのプリセットは、シンセサイザーやドラムマシンなどのラインレベル信号を想定して設計されています。意図された音を正しく再現するために、Xenodrive の GAIN は +6dB に設定してください。

- 33 **CERBERUS** - サウンドを徹底的に破壊し、強烈でパワフルな結果を生み出します。
- 34 **JUNKY GRIT** - 電子ドラムに使用すると、破壊的なエッジを加えることができます。
- 35 **BAD GUITAR** - エレクトリック・ギター向けに最適化された、アグレッシブなディストーション・プリセットです。適切な入力レベルであることを確認し、GAIN ノブで調整してください。
- 36 **VERTIGO** - シェイプとディストーションによって信号を崩壊させ、鋭く歪んだエッジだけを残します。
- 37 **ACID FEEL** - TBシリーズで有名なディストーションを再現したサウンドです。アシッド・グルーヴに最適です。
- 38 **DR OIZO** - アナログ・ドラムに最適なシェイパーFXです。
- 39 **DRIVER: D\W** - このプリセットで、アルペジエーター系シンセをよりアグレッシブなサウンドに仕上げます。
- 40 **BOLD BUZZ** - シェイプとディストーションによって、サウンドを凶暴で過激なキャラクターへと変化させます。
- 41 **ACID CREAM** - シンセベースと組み合わせることで、クリーミーな 303 スタイルのサウンドを生み出すのに最適なプリセットです。
- 42 **BALROG** - シネマティックな演出のために作られたエフェクトです。シンセに適用するだけで、即座にインパクトのあるサウンドになります。

▶ 安全に関する諸注意

Erica Synths Xenodrive を安全かつ正しくご使用いただくため、必ず以下の取扱説明に従ってください。記載された手順を守らずに使用された場合、本機の正常な動作が保証されず、製品保証の対象外となることがあります。



Xenodrive は、必ず付属の電源アダプター (PSU) をご使用ください。指定以外の電源アダプターを使用すると、本機に重大な損傷を与える恐れがあります。



水分は、大半の電子機器にとって致命的です。本機は防水仕様ではなく、湿気の多い場所や濡れた環境での使用を想定していません。液体や導電性物質が内部に侵入しないよう十分ご注意ください。万一、内部に液体等が入った場合は、直ちに電源を切り、電源プラグを抜いた上で乾燥させ、必ず専門技術者による点検およびクリーニングを行ってください。



本機は、+50° C を超える高温環境、または -20° C を下回る低温環境で使用または保管しないでください。極端に低温の環境で輸送された場合は、通電する前に、室温で少なくとも 1 時間程度放置してください。



輸送の際は十分に注意して取り扱ってください。落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。外観上の損傷がある製品は、保証の対象外となります。



修理、返品、交換、保証対応のために本機を発送する際は、必ず購入時の純正梱包箱をご使用ください。純正梱包箱以外で送付された製品は、受領できず返送される場合があります。純正梱包箱および付属の技術資料は、大切に保管してください。

▶ 製品の破棄について

本製品は EU 指令に準拠して製造されており、鉛、水銀、カドミウム、クロムを使用しない RoHS 規格に適合しています。ただし、本製品は特別管理廃棄物に該当するため、一般家庭ゴミとして廃棄することは推奨されません。

ユーザーマニュアル：Girts Ozolins (Erica Synths)

デザイン：Ineta Briede (Black8)、Maija Vitola (Black8)

本マニュアルの転載は禁止複製、配布、商用利用は、いかなる形であっても Erica Synths の書面による許可なく行うことを禁じます。製品仕様は、予告なく変更される場合があります。

ご不明な点がございましたら、Erica Synths 公式サイトの SUPPORT セクションよりお問い合わせください。

You will find the Erica Synths terms of warranty at
www.ericasynthslv

Items for return, exchange and/or warranty repair should be sent us
according to the guidelines on SUPPORT section on **www.ericasynthslv**

Erica Synths
Tiklu Str. 3
Riga
Latvia
LV-1048

Elektron Distribution Group 株式会社
〒237-0057
神奈川県鎌倉市大船笠原ビル5階1号室
www.elektrondistributiongroup.com